

Title	ヒューマンボディデザインについて : ファッション, メイクアップ, ボディメイキング
Author(s)	滝口, 洋子
Citation	デザイン理論. 41 P.92-P.93
Issue Date	2002-11-09
Text Version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/11094/52749
DOI	
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

ヒューマンボディデザインについて

— ファッション、メイクアップ、ボディメイキング —

滝口洋子／京都市立芸術大学

例えば、誰か知っている人をイメージするとき、多くの場合それは顔だけでなく衣服を着たものだろうし、シルエットをもち、歩き方や話し方なども含めて表情を持っているものだろう。イメージされた人は服を着ている。だからイメージ上では、その服はその人本人の表面であり、身体の一部となっている。では、その人が服を脱いでしまうと脱がれた服はもうその人の身体の一部ではなくなり、ただの「もの」になってしまう。脱がれた服に触れることと、着られている服に触れたり手を差し入れたりすることは全く違った意味をもつだろう。

古今東西、人間はさまざまな方法で身体を飾り、加工を施してきた。コルセットのしまりをよくするため肋骨の一部を除去したり、首や下唇をのぼしたり、足の成長を止めたり、身体中を刺青で覆ったりと。ここまではいなくても、現代の私達の生活に於いても身体加工や変形は日々行われている。髪の色を変えたりカールさせたり、髭の手入れや眼鏡、眼を縁取り、口紅をさし、肌も白くしたり焼いてみたり。また、ボディもよせたり上げたりファンデーションで自在に変形できる。ピアッシング、ネイルアート、エクササイズ、美容整形、ダイエット食品をとることもすべてこれらに含まれる。ではどうして人はこんなに不便で窮屈で時に身の危険をおかしてまでも身体を飾り、加工してきたのだろうか？

それは、誘惑するため、異性を求める本能だという説や、ファッションは自己の内面の表現であり、社会へ向けての一種の記号であるという説。また、人は自分自身の姿を直接

見ることができないという不安から、他者の眼差しを通して自分を確認しているという説など、さまざまな理由があげられている。どれも正しいといえるが、そこには人がより幸せに生きるための生と性の問題が含まれている。人には「成長したい」「よりよく変わりたい」「今の限界を超えたい」というような成長欲求があり、自分にとって理想のモデルをイメージして、それに近づくために化粧をし、衣服を選び、身体に加工を加え続けるのだろう。それは表層の変化ではなく、ヒューマンボディの変化、つまり人間の変化であると考えられる。ファッションデザインを単に衣服のデザインにとらえず、広く人間の身体（ヒューマンボディ）のデザインにとらえ、デザイナーたちの身体感、セクシュアリティ（エロス）についての考え方の違いから現代のファッションを振り返ってみる。

1. 主に男性デザイナーによる着せたい服、 見せるための服

着る人の不自由さは問題ではなく、ボディラインをくっきりだして、身体の美しさやしなやかさを見せつけるタイプの服といえる。身体はパーツを強調することで再構成され、服そのものが強いセクシュアリティをもっている。

- サンローラン／
シースルーロック、メタルボディ
- ガリアーノ（ディオール）／下着を組み込んだ拘束するドレス、ロンドンストリート
- アライア／ボディコンシャス

「服と身体のフォルムは一致する」

- ミュグレー／モンタナ／
鍛えたボディをもつ強いイメージの女性
- 三宅一生／ゴルチエ／
タトゥースーツ（皮膚感覚）
- ゴルチエ／下着ルック，アンドロジナス
（中性的というより男でもあり女でもある
幅のあるセクシュアリティ）
- ベルサーチ／
過剰な色彩と装飾，野性的エレガンス

2. 女性デザイナーによる着たい服

体型を補正するため，装うことでリラックスし，自信がもて，女性が自由に活動できる点が特徴である。デザインとしては主張の少ないものだが，着心地のよい素材で機能的につくられており，現実の市場では非常に人気が高い。

- ソニア／シャネル／普段着であったニット
やツイードをハイファッションに変えた。
- プラダ／ミュウミュウ／
モダンでかわいいリアルクローズ

3. 日本人デザイナーによる着る人の身体で完成する服

服自体よりもまず着る人間に焦点をあて，

着る人そのものや身のこなし，振るまいを重視する服づくり。パーフェクトなボディをもたない，ふくよかな人も年老いた人も自分の身体を愛しましょうと提案。

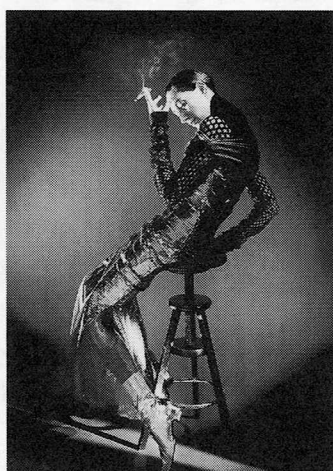
- 三宅一生／一枚の布，ボディワークス，
プリーツ，a-poc
- 川久保玲／ボロルック，こぶドレス「服が
身体になり，身体が服になる」
- 山本耀司／ニュークチュール，キモノドレ
ス，アディダスとのコラボレーション

4. ヒューマンボディデザインの実験 （学生作品）

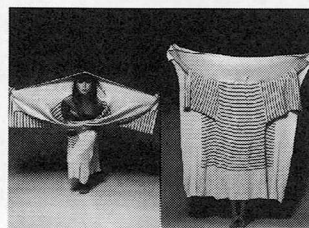
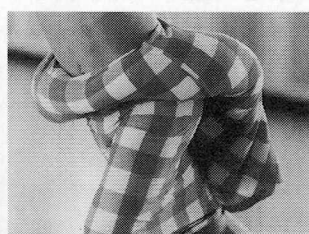
- 素材からの発想と可能性
- 活動する人体をデザインの基準，目的とすること
- 自身の身体表現によるプレゼンテーション



イヴ・サンローラン



ジャン・ポール・ゴルチエ



上：川久保玲／下：三宅一生